

せとやきっすプレミアム検定

- 下の文章を読んで□に答えを書いてください。(ひらがな可)
※同じ番号には同じ答えが入ります。

藤四郎についての問題です。

あるとき、瀬戸にやって来た藤四郎は、(⑪)色がかった灰色の、ねばりけの強い(⑫)を見つけました。ためしにこの(⑫)で焼き物を作ってみたところ、すばらしい(⑬)ができました。

藤四郎は、瀬戸に住むことにし、焼き物を焼くための窯をきずき、(⑬)を作りはじめました。こうして、瀬戸では、(⑬)がさかんに作られるようになりました。瀬戸で作られた焼き物は、のちに瀬戸物とよばれ、日本中に知られるようになりました。瀬戸で焼かれたものでなくても、焼き物のことを瀬戸物とよばれるほどです。

藤四郎の作品として今に残っているのは、深川神社の(⑭)と(⑮)だと言われています。

※(⑭)、(⑮)の答えはどのような順番でも大丈夫です。 ※(⑭)、(⑮)には同じ言葉は入りません。

⑪	茶	⑫	土	⑬	陶器
⑭	狛犬	⑮	お神酒つぼ	(P81)	

加藤民吉についての問題です。

九州の(⑯) (熊本県)の寺に、菱野村(今の幡山中学校の近く)出身の天中という和尚さんがいたので、その人をたよって九州へでかけました。

天中和尚から(⑰)の窯元の上田源作を紹介され、半年間しんけんに働いて、だいたいの事はおぼえましたが、どうしても釉薬(うわぐすり)などの大事な技は教えてもらえませんでした。(⑱)の作り方は秘密にされ、よそ者に教える事が禁止されていたからです。

それでもいろいろな窯元をたずね(⑲)のところで(⑳)年間熱心にはたらいて、うで前がとても進歩しました。(⑲)は民吉を大変かわいがって、娘の婿にしてあとつぎにしようとなりました。民吉は、瀬戸から勉強しに来ていることを話してことわりましたが、(⑲)は民吉に感心して、これまで教えないようにしていた事もすべて教えました。

瀬戸へもどる前に上田源作におれいを言いに行ったとき、上田源作は民吉の熱心さに感心して、秘密にしていたすべてを伝えました。

⑯	天草	⑰	高浜	⑱	磁器
⑲	福本仁左衛門	⑳	2	(P82~83)	

せとやきっすプレミアム検定

注意事項

- 問題は1~20まであります。
- 答えは黒えんぴつか黒ボールペンで決められた欄に記入してください。
- 携帯電話などの電源は必ず切ってください。
- 1問5点で100点満点です。
- 70点以上を合格とします。



受験番号	学校名	学年	名前
		年	

実施日：令和6年11月23日(土・祝)

瀬戸商工会議所

問題は20問です。答えは□のなかにご記入ください。(ひらがな可)

例 プレミアム

●焼き物でできた置物のことを(①)と言います。

① ノベルティ (P55)

●焼き物を焼くときには、その日の天気や気温を考えながら(②)(かまで焼くこと)をしています。

② 焼成 (P59)

●陶祖碑は陶祖公園にある、藤四郎のことを書いた(③)の陶器の柱です。

③ 六角形 (P80)

●「(④)」には、土をさがしているところ、土をほっているところ、ろくろが回る様子、できた焼き物をながめる様子が踊られています。

④ 瀬戸音頭 (P81)

●加藤民吉は(⑤)神社にまつられています。

⑤ 窯神 (P83)

●加藤民吉は今から240年ぐらい前の江戸時代の中ごろに、(⑥)村で生まれました。

⑥ 瀬戸 (P85)

●赤津焼の7色のゆうやくは、「御深井・(⑦)・鉄釉・織部・(⑧)・志野・古瀬戸」です。

※(⑦)、(⑧)の答えはどのような順番でも大丈夫です。
※(⑦)、(⑧)には同じ言葉は入りません。

⑦ 黄瀬戸 (P87)

⑧ 灰釉 (P87)

●一人前の焼き物職人になるために長い間しゅぎょうをしなくてはならないことを表す言葉は「土ねり三年、ろくろ(⑨)」と言われています。

⑨ 十年 (P89)

●昔、焼き物を作るときは、かまのねんりょうに(⑩)を使っていました。

⑩ 石炭 (P91)